

平成 23 年度環境省中部地方環境事務所受託業務

平成 23 年度

北陸における環境協働活動調査業務報告書

平成 24 年 3 月

国立大学法人 金沢大学

目次

はじめに	1
第1章 総括	2
第2章 事例研究	5
第1節 きんたろう倶楽部による里山保全再生	5
第2節 宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組	17
第3節 里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり	28
第4節 環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動	39
第5節 三方五湖の自然再生に関する環境協働活動	49

はじめに

金沢大学は、平成 23 年度に中部地方環境事務所からの受託事業として、「北陸における環境協働活動調査業務」を実施した。本事業は、北陸における代表的な環境協働活動としてどのような事業が今展開されているのか、その背景と現在までの活動内容にいたるプロセスや協働の運営体制等を把握し、今後協働活動を推進するための課題やポイントの把握を行うとともに、それらの活動が ESD の視点を有しているものかどうかを調査し、これら事例を参考として協働や ESD の普及を進め、その関係者と連携し、新たな人材の育成を促すことを目的としている。

本事業では、環境協働活動に関する北陸の 5 つの活動を対象として、具体的な事例研究を行い、取りまとめを行った。事例研究に際しては、関係者に対するヒアリング及び報告の取りまとめを識者をお願いした。5 つの事例とその執筆者は以下に示すとおりである。それらの事例報告の総括を本報告書の第 1 章として鈴木がとりまとめ、各事例報告を第 2 章として掲載している。また、ESD との観点を含む全体的編集作業を石川県立図書館の今井和愛担当課長をお願いした。

富山県 ①きんたろう倶楽部による里山保全再生

NPO 法人アースデイとやま 小島尚子氏

②宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組

富山国際大学子ども育成学部上坂研究室研究員 辻口恭子氏及び上坂博亨教授

(執筆支援)

石川県 ③里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり

NPO 法人くくのち 小中真道氏及び竹田裕治氏 (執筆支援)

福井県 ④環境パートナー池田 (福井県池田町) によるまちぐるみのエコ活動

(株) 環境アセスメントセンター敦賀事務所長 関岡裕明氏

⑤三方五湖の自然再生に関する環境協働活動

NPO 法人アマモサポーターズ代表 西野ひかる氏

本事業に際し、執筆者、編集者による 2 回の打ち合わせ会議を開催し、事例研究の進め方について認識を共有するとともに、事例報告の成果を共有するとともに、報告の一層の改善を図った。本報告書は、打ち合わせ会議の成果を踏まえて加筆修正された事例研究の最終報告である。本報告書における事例研究が北陸の、さらには全国の環境協働活動を進める方々の参考となり、関係者間のコミュニケーションとネットワークの強化に資することを願うものである。

最後に、事例研究に多大な貢献をしていただいた関係者の方々、特に執筆者、執筆を支援いただいた方々及び編集者に、この場を借りて深く感謝する次第である。

平成 24 年 3 月
金沢大学環境保全センター教授
鈴木克徳

第1章 総括

本事業では、北陸における5つの環境協働活動を対象とし、以下の観点から事例報告を取りまとめている。

(対象活動)

- 富山県 ①きんたろう倶楽部による里山保全再生
- ②宇奈月温泉における低炭素型地域づくりへの取組
- 石川県 ③里山資源を活用した金沢市東原町の循環型地域づくり
- 福井県 ④環境パートナー池田（福井県池田町）によるまちぐるみのエコ活動
- ⑤三方五湖の自然再生に関する環境協働活動

(事例報告の視点)

- ・活動の社会的背景
- ・立ち上げの経緯、きっかけ
- ・活動内容（活動の目的、理念、計画など含む）とその変遷
- ・運営体制
- ・活動等を支援した、もしくは活用した地域資源（人材・組織など）
- ・活動を協働で推進することによるメリット、デメリット
- ・協働活動の成果の評価と今後の課題
- ・その他（案件に応じて必要な事項）

これらの5つの事例は、環境協働活動という面では共通するが、対象地域の規模、中核となる団体の性格、関係するステークホルダー、行政との関係などの観点からは、極めて多様である。それぞれの活動の特徴を整理すると以下のようになる。

	きんたろう倶楽部	宇奈月温泉	金沢市東原町	池田町	三方五湖
対象地域の規模	主として富山市内の7か所の里山	宇奈月温泉	東原町 (人口115人)	池田町 (人口約3,200人)	福井県若狭町、美浜町にまたがる5つの湖
中核となる団体	NPO 法人きんたろう倶楽部 会員約50名 事務局4名	協議会、でんき宇奈月プロジェクト 実行委員会	東原町地域活性化 実行委員会 NPO 法人くくのち	環境パートナー池田 100人のパートナー会議	ハスプロジェクト 推進協議会 三方五湖自然再生協議会
活動	里山回復に向けた ・森づくり ・人づくり ・地域づくり ・仕組みづくり	電気自動車（EV）の導入や小水力発電等による環境にやさしい観光地づくり	里山の保全・再生、里山の資源を活用した地域の活性化	池田町内の環境活動全般を促進支援する ・環境広報誌 ・エコポイント事業等	三方五湖の再生 ・ハス川魚類調査 ・カヤ田植物調査 ・水鳥観察会等

関係ステークホルダー	あらゆる個人、団体への働きかけ 個人とのつながりに拡大	地元を中心とする 地元企業、大学、自治体等、	地域の企業、学術機関、市民団体との連携・協力の	町役場 商工会議所 様々な NGO	NGO、行政学校、大学、漁業者、農業者
行政との関係	富山市が間接的にバックアップ	行政とは適宜連携協力	行政との直接的な関係は薄い	極めて密接 行政による大きな支援	ぎくしゃくすることもある。
主な課題	活動の持続性と拡大可能性	現在発展中 事業の自立性	東原町の人口の維持		学校や行政とのより良い協働

三方五湖やきんたろう倶楽部のように、広範囲の地域での活動を行っている事例もあれば、金沢市東原町のように、特定の極めて小さな地域での活動に焦点を当てた事例もある。活動の規模により、協働のやりやすさや効果に違いが生じていることが、事例調査の結果から伺われる。また、大規模な活動の場合には、異なるステークホルダーが中心となるいくつかのプロジェクトが緩やかに連携しているものも見受けられる。

今回調査した各活動に共通する特徴としては、以下の点があげられる。

- ・協働を推進するための中核となる団体、個人が存在する。
- ・協働に際しては、数多くのステークホルダー間の連携・協力がなされている。
- ・今回のすべての事例において、地域の自然や社会が重視されている。
- ・持続可能な社会づくり（ESD）に際して重要と考えられる協働の必要性、有効性に関しては、どの事例においても認識が共有されている。
- ・また、今回調査したすべての事例において、ESD が重視する「つながり－関係者間のつながり、事象間のつながり」が重視されている。

他方、異なる事例の分析結果から、以下のような問題が見えてくる。

- ・多くの事例において、将来展望を関係者間で共有できるようなビジョンが取りまとめられている。金沢市東原町のような小規模な地域を対象とする活動の場合には、関係者間の直接的な対話の機会が多いため、必ずしも明文化されたビジョンを共有しなくても済むが、活動の規模が大きくなるにつれ、認識を共有するための明文化されたミッション・ステートメントが重要になるようである。
- ・また、同様に、規模が大きくなるにつれ、関係者間の密なコミュニケーションが難しくなり、相互に不満を持つケースも生じている。
- ・行政との関係については、事例ごとに差が見受けられる。池田町のように、極めて密接な協力関係が保たれている事例もあれば、行政との接点が少ない事例、行政との間にギャップを感じている事例もある。行政との良好な関係を構築しやすい適正な規模があるのかもしれないと推測される。
- ・人材育成や地域の人々の自主性の醸成という観点からは、必ずしも十分な成果を上げていない事例もある。これは、必ずしも失敗ととらえるべきではなく、人材育成には長期的な

視野に立った継続的な努力が必要とされると考えられるべきであろう。

- ・他方、協働を志向する活動に際しては、活動の自立性、継続性の担保、そのために必要となる地域の人材の育成について慎重な配慮が必要であることが明らかに示唆されているといえよう。